

給食ってあったかい

鳥居松小学校 六年 豊島 優

私は、入学当時、食が細く、母が何より心配したのが、給食を残さず時間内で食べれるか。ということだったそうです。一年生初めての給食はカレーだった事はよく覚えています。自分たちで準備をする事に驚き、給食当番の白衣がなんだかともかっこよく見えました。はじめての給食は、朝、母が言った「頑張って食べるんだよ」という言葉を思い出し、食べきる事が出来ました。担任の先生が「全部食べれた子にはシールをはるよ。」と言ったので、嬉しくて、その列に並びました。帰宅して、ほらしげにシールを見せたら、母がとっても喜んでくれました。次の日からもシールを母に見せたくて頑張って食べました。

それから、五年間たった今でも、毎朝、こんだて表を見て、「今日は○○だよ。」と母がいいいます。中でも、ソフトめんの日は、必ず「いいなあ、食べたいな。」とおきまりのように言います。母は、給食に興味をもたせるために、私に、色々な話をしてくれました。中三で給食がおわってしまうわけですが、母が一番好きだったソフトめんの最後の給食の日、四時間目から腹痛におそわれ、半分しか食べれず、思わず泣いてしまったそうです。周りは、腹痛のための涙だと思い、心配してくれたそうですが、実際は、ソフトめんの涙だったと笑いながら教えてくれました。そのためか、私も、ソフトめんが大好きです。お昼、ソフトめんを見ると、つい、その話を思い出し、笑えてきます。そして、「ママにも食べさせてあげたいな。」と思ったりもします。

今では、給食を残す心配もなくなり、毎日の給食の時間が何よりの楽しみです。

給食のあることが当たり前になっていますが、考えてみたら、あと、三年半しか食べられません。いつもあたたかく、おいしいお昼が食べれる給食に感謝をし、私は私なりのたくさん思い出を作っていきたいです。